

令和8年度 学力向上に関する全体計画

学校番号 42

練馬区立谷原小学校

＜関係法令等＞

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領等

＜学校教育目標＞

人間尊重および社会貢献の精神を基調とし、心身ともに健康で調和のとれた人格形成を目指し、社会の変化に自らの確に対応でき、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる人間性豊かな児童の育成を図る教育を推進する。

◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

＜願い＞

- ・児童の実態や願い・保護者の願い
- ・地域社会の願い・PTA 運営委員会からの意見等

各教科の指導の重点

（国語）語彙を増やし、自分の考えや意図などを伝える力を伸ばすため、文学教材の読みの指導を工夫し、それを支える日常の言語環境を整える。

（社会）実感を伴った学習が進められるように、見学調査等を効果的に取り入れるとともに、資料の読み取りの力を養う。

（算数）習熟度に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

（理科）教材園の教材化を推進し、問題解決的な学習指導を工夫するとともに、基礎・基本の確実な定着を図る。

（生活）具体的な活動や体験を通し、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自立への基礎を養う。

（音楽）音楽を愛好する心情と感性を育み、思いや意図を主体的に表現する姿勢を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培う。

（図画工作）集中して表現活動を継続させ、制作過程を大切に表現する喜びと、完成したときの喜びを味わわせる。

（家庭）「安全・協力・楽しく」を授業の基本とする。興味関心、意欲を大切にし、学習したことを身近な生活にもすんなり取り入れられるような授業の工夫を行う。

（体育）多くの活動時間を確保した授業に取り組む。友達と協働しながら体力の向上を図る。

子供の工夫する力を伸ばし運動に親しみ資質や能力を育てる。

総合的な学習の時間の指導の重点

～親しみ・捉える・深め広げる～

- ・様々な人々とふれあい、視野を広げ、各教科・道徳および特別活動で身に付けた力が総合的に働くよう指導する。
- ・課題解決に向けて主体的・創造的に取り組む態度を育て、自らの生き方を考えることのできる児童の育成を図る。

学校経営計画（学力に関して）

「学ぶ力を育成・定着させる」

（学習指導の目標）

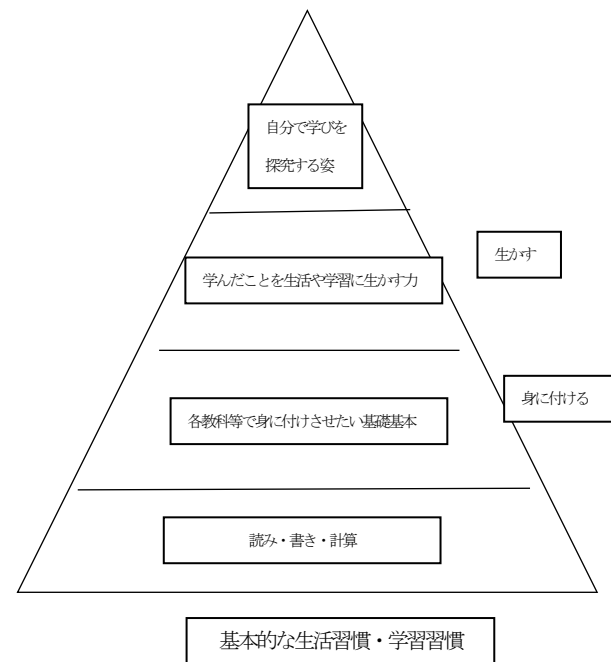
- ・基礎基本を重視し、その内容の定着を図るとともに、思考力や判断力、表現力を高め、主体的に対応できる子供を育成する。

（学習指導の指針）

- ・谷原スタンダードの確実な実践を行い、全学年で系統的な指導、振り返りの展開
- ・学ぶ意欲や考え話し合う態度を高めていく指導の展開
- ・ICT 機器を継続的に活用し、学習意欲と学習効果の向上
- ・一人一人の目標をより明確化し、ユニバーサルデザインの発想を生かし、個に応じた指導の展開

◎谷原小学校における確かな学力

谷原小学校では、学力は単なる知識の量のみで捉えるのではなく、学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせることはもとより、自ら学ぶ意欲や、思考力・判断力・表現力などの資質や能力までも含めたものとして捉える。



国・都学力学習調査より（5、6年）

（国語）事実や意見などを区別し、自分の考えを明確にもたせ、適切に表現できるよう言語活動を充実させる。

（算数）ドリル的な反復学習を充実させることで基礎基本の定着を図る。授業の中で、問題の意味を説明したり、図式化したりする時間を増やす。

道徳教育の指導の重点

- ・教育活動全体を通して、教師と児童および児童相互の人間関係を一層築き、自他の生命及び個性を尊び、自分と誇りをもち他を思いやる豊かな心と道徳的実践力の育成を図る。
- ・ボランティア活動、体験活動などを通して、よりよい生き方について自覚させ、児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
- ・充実した生活を送るために基本的な生活習慣を身に付ける。自分の生活を見直し、自分を客観視するために自分の現状を内省することで自己の確立を目指す。

特別活動の指導の重点

- ・学級活動や学年、きょうだい学年など教育活動全体を通して、自主性を養うとともに、集団の一員としての自覚を高め、積極的な実践する態度を育てる。
- ・クラブ活動を通じて、地域の方々や保護者の協力を仰ぎ、児童の個性の伸長を図る。

生活指導の重点

- ・基本的な生活習慣の定着や言語環境の整備を通して、規範意識を育て、安定した生活ができる児童の育成を徹底する。
- ・一人一人の児童特性を認めるとともに、全職員で児童を見守り指導していく体制を強化する。いじめや不登校、学級の崩れなどの諸問題を早期発見する。
- ・生活指導上の諸問題の解決に全職員で共通理解を図り共通理解する。
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を培う指導を行う。

キャリア教育の指導の重点

- ・児童が自分の個性やよき・可能性を気づかせ、自覚意識を育てるとともに、中学校と連携して、進路を選択し自己実現を図る能力、勤労観や職業観を養う指導に努める。

外国語科・外国語活動

外国語による聞くこと、話すこと、書くこと、読むことの言語活動を通して、外国語の音声やリズムに慣れ親しみ、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や技能を養う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教職員の編成上の工夫・教職員の整備	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
・体系的・問題解決的な学習や情報活用を通した学習を重視する。 ・習熟度別指導の工夫をする。 ・発展的な学習・補足的な学習を開発する。 ・理解度に応じた柔軟かつきめ細かい指導を充実させる。	・担任と指導方法工夫改善加配教員および学力向上支援講師を活用し、きめ細かな算数科の授業の充実を図る。 ・学校図書館、学級文庫を整備し、読書や読み聞かせなどの活用を充実させ、言語環境を向上させる。 ・学校教材園等の校庭環境を活用して、体験的学習指導の工夫を図る。	・授業力向上および日常の学級経営充実の両面から研究を進める。 ・体育健康教育推進校としての研究をまとめ、発表を行う。 ・コロナ禍における児童の体力低下の実態を基に意欲や体力を高める場の設定と指導の工夫を追究する。	・座席表を活用した児童の見取りを行い、評価資料を蓄積し、確かな根拠に基づいて説明責任を十分に果たす。信頼ある評価を実施する。 ・児童の自己評価の結果を授業改善に生かす。	・学校公開の実施や道徳授業地区公開講座の実施を通して教育活動の発信を積極的に行う。 ・谷原小地域未来塾を立ち上げ、地域人材を活用して児童の基礎学力と学習意欲等の向上を図る。 ・ゲストティーチャーや保護者ボランティア団体による読み聞かせなど、地域人材を活用し学校地域と協同して教育活動を行う。	・校区分協議会の各分科会における協議内容を活用する。 ・小中一貫教育実践校および研究グループの実践例を活用し、小中のスムーズな連携を図るとともに近隣校とも教育活動を通して交流する。課題改善カリキュラムの検証を繰り返し、より実効性の高い計画を目指す。